



佛
譜
志
抄

下

特 別
^5
6704
2



いね字一白此中一いね字一いね字一いね字
いね字一いね字一いね字一いね字一いね字

らんもあや あしきよのあやまら ー

いし いし ー 社 吉法了庵 社 此何所

一と秋 い たり い ー い 拙志 い 何所

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い 一いね字 い

じ

梅

此一コウハイ梅一ゴキ冬本一アラハメ春梅一モミチお茶の一梅

お茶のハ月ゲツ流リウ乃ノ事シ此物コト式シキの物モノ一ニ後ノチは

世セまでマデとトいハふフのノ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

ハハウウとトいハふフ世セまでマデとトいハふフ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

此物コト式シキの物モノ一ニ後ノチは

世セまでマデとトいハふフのノ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

ハハウウとトいハふフ世セまでマデとトいハふフ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

此物コト式シキの物モノ一ニ後ノチは

世セまでマデとトいハふフのノ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

ハハウウとトいハふフ世セまでマデとトいハふフ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

此物コト式シキの物モノ一ニ後ノチは

世セまでマデとトいハふフのノ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

ハハウウとトいハふフ世セまでマデとトいハふフ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

此物コト式シキの物モノ一ニ後ノチは

世セまでマデとトいハふフのノ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

ハハウウとトいハふフ世セまでマデとトいハふフ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

此物コト式シキの物モノ一ニ後ノチは

世セまでマデとトいハふフのノ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

ハハウウとトいハふフ世セまでマデとトいハふフ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

此物コト式シキの物モノ一ニ後ノチは

世セまでマデとトいハふフのノ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

ハハウウとトいハふフ世セまでマデとトいハふフ事シ何ナニにニ合アヒてテ思オモはスるル也ヤ

式し仰よ六丈と云字付し一尺乃出と一加く
四しやう海と云と云わあとの若の出にけやん
物やうんせし同およあまへ一又あひ
とよせむ六丈の粗乃出と云と云字付と粗
終と出れうと云と云又切けと云と云
云のまし

室戸

居下よわと云と云一説よま
折まくと云と云後よ六尺乃粗
たくと云と云此房室しと云わ世後と云
昔もまの室の戸と云此房室は所い
経論よ禪室入室と云と云と云と云
よわくと云と云と云と云と云と云

房ハ居下し然ハもと云と云此房の房は折
と云と云仰よあまつと云と云勿論

室乃八急

人家の竈と云と云又若下よ二不
と云と云此と云と云と云と云
と云と云煙と云と云と云と云と云
と云と云後と云と云と云と云と云
わわと云と云と云と云と云

室ハ急の乃わらと云と云
室ハ急の乃わらと云と云

田上や新しと云と云と云
室ハ急の乃わらと云と云

室ハ急の乃わらと云と云

じかく此園

此園ハ雲出牧ノ奥州ト
出牧ノ境ノ原上ノ地ニシ

武吉此出牧ノ地ニシト云々

^{合カレ}昔

此二部ノ一ニシハ昔ハ折ノ
地ニシト云々

昔ハ折ノ地ニシト云々

昔ハ折ノ地ニシト云々

昔ハ折ノ地ニシト云々

急由

急由ノ地ニシト云々

又ニノ地ニシト云々

又ニノ地ニシト云々

難シ統とも時節ハ公認ナリ

年中一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

毎此年一毎此年一毎此年

村

村ノ一毎此年一毎此年

たぐに地内村とくし又いさく地内の村とくし
 まよあまのいゆまのまよ又たぐに地内の村と
 ひさしまた村とくし又いさく村とくし又いさく
 去し又善いさく村たぐに地内の村とくし
 まよ又人あつ村の里まよ二のまよ
 合口 尾下まよあまのいさくまよ一法席
 延 孝じし海管平此管まよ一まよ二まよ
 加て三まよ一まよ一善じし一まよ一
 地内しまよとまよのまよ一まよ一
 法席一まよのまよ一まよ一
 枕算一まよ一席まよ福じし海まよすの物まよ
 福じし海まよ一まよ一

埋木 ムシキ
 地内まよあまのいさくまよ一まよ一
 左のうまよ一まよ一埋まよ一まよ一

あまのいさくとまよのいさく
 右の川流此埋木取くまよ一まよ一

馬 ウマ
 此一約一あまのいさくまよ一まよ一
 此まよ一約一あまのいさくまよ一まよ一

生取まよあまのいさくまよ一まよ一
 加て四まよ一まよ一又法海法長ハまよ一まよ一

まよ一まよ一まよ一まよ一まよ一
 まよ一まよ一まよ一まよ一まよ一

又まよ一まよ一まよ一まよ一まよ一
 日まよ一まよ一まよ一まよ一まよ一

驛路

生駒のめも尻のめも女式如く
和漢ともよる所は此幸し
神功皇后御朝志の
又昔は長草蓋

唐乃法衣和法より川
其の何はナ
又昔は長草蓋

驛長莫驚時更改一栄一樂是春秋
又白

庫心ゆり
又

又朗詠
又
又

胡地は
勅使乃
又

又

又

又

胸乃霧

又胸乃霧

去りりるをひひし

^{ムラサキ} 蕙乃花

杜しあは雲いよこし花いゆ

杜しあは雲のまの難し又あはの祈りわの衣い
は雲乃とぬときて人と祈りわられん汗よあうて
りり衣寝より衣ときし又根すりり
雲のわしすりり幸し直流し

じさし

生動し

心動し

悲し

^{ムカ} 白

白二りきし 鶴乃二りきし

寄

鶴

秋し鶴乃衣分よゆりも也して
雲花也よよ衣もしあるうと

衣もし又うりり鶴乃も秋し

鶴衣

言秋し生動よきふと鶴乃い

荀子曰子夏貧衣若無鶴 又鶴衣百結とて

衣乃系れうり此毛の

鶴丹

鶴川鶴何みさあし 舞付うり鶴川
部も付うり鶴乃難くある

大いん

ら

賞

此の賞は愛やうくひんを以てし

賞は六建作のよき字を以てし

きし心解はなまきし

幸のしはなまきし

大のしはなまきし

下

高のしはなまきし

うゝあゝあゝあゝあゝ

歌

高のしはなまきし

まじしんあゝあゝあゝあゝ

幸のしはなまきし

高のしはなまきし

あゝあゝあゝあゝあゝ

高のしはなまきし

あゝあゝあゝあゝあゝ

高のしはなまきし

あゝあゝあゝあゝあゝ

高のしはなまきし

あゝあゝあゝあゝあゝ

高のしはなまきし

方此まよはぬとて又りよ

海多しむとて友をたすのまらり 是ハ原

まらぬとて方此まよはぬとて折れし心部
あましく又たのまらぬとてあましく

うたはれし心

あましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

浮急原

あましくあましくあましくあましく

事此原よゆとて

舟よゆとて事此原よゆとて

浦急子

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

あましくあましくあましくあましく

たりまらむぬ三年此方よりなりしも数百年
乃後し出乃をそ成の時ハ他境より御つて地を
云よりあきくくをし知とそまをし

交更ハ備急子此後まやと居りて悔れん
う川中よりきてもまをし御よ御心にて

卯心

卯心下しよりし書所よりなり

いふうく又まをし

兎

兎一例ハ月筆まをしよりまをしとまをし
又ま平此卯ハ折まをし二の卯よまをし

卯心も折まをしし卯よ卯日まをし
下へるまをし又卯心ハ地地方よりなり
兎ハうらまをしなり

海

海一若本よし御よ此乃内よとまをし
伊勢此海を此の海をいひて海の名よ
まをし若本よし又卯一海東海此内よま
御よまをし

卯一海此を此の海よ御て

あつた事此の事ハまをしは恒例ハ此海
若本此地ちれん又まをし

卯一海此の事ハまをしは恒例ハ此海
あつた事此の事ハまをしは恒例ハ此海

又和四乃系ありそらみ本海のよまをし
海此の事ハまをしは恒例ハ此海
又和四乃系ありそらみ本海のよまをし

柳の原よりしをくしてつらハ橋あり

恨ウラミ 高よ二多よ二し 仰よ二いつきうそもと二是
かき川を甲一ふをくううみよきうそあ
まきくんと仰よ七のまし

宇治乃川急 され乃急のしし 此處は能也
他の中急出も同あし

宇治の橋姫 ハシヒメ 姫大の神として橋下よす
ゆ神し又橋乃およおすり

新リキウ 文とより神乃あがくがしひあそくは
善サムシロ 十心とくあがくいし

小延サムシロ 夜がしれたとあや我とゆん宇治の橋姫
里さう此方とすわ又佐吉此神ともきり

梅ウメ 月日花の色赤よりつりても二字うそし又
うの梅よとく此乃ハあはれ神なるは仰よ

肌ウメ うらまそも折まきくし又梅ウメ 鳥ハ神カ なる
肌うんじとひてきりし

枯カ 秋し草苑原野をむむとひて
すりし枯物よまはれ知し草あは

字まへ仰よう枯きくちつてくまはれ
ま一枯物ハ冬し春のうよう枯きく

その折よ冬の枯物ともさうくも冬を
冬草とハまう又あれ枯よま乃枯ハま

折まきくし仰よあまし又人か神ハ枯よ二
ましめ枯物よよせといとくあまし

二
三

少
うらな
二も
精よ
よりて

孟蘭盆
他唯

杜
一本
杜ゆ

う
浦乃
ま

尚
尚

井

守宮
井
あま

と
虫
わ

あ
臂上
出
う

う
宗

大
三

海防

ノハミヤ

亦祇し名不しサカカ 峯崎サカカ 実成サカカ よら

中々

仔坊の勢サカカ まよきまらふサカカ 財の精サカカ を屋サカカ し

中々

ふハ秋しサカカ 九月ナサカカ ありサカカ せんサカカ 桂川サカカ の後サカカ と

中々

日月しサカカ 西川のサカカ もくサカカ ともサカカ すサカカ せんサカカ 母サカカ 実サカカ よサカカ 下サカカ あり

中々

財しサカカ 桂川サカカ せんサカカ 後サカカ の定サカカ 財サカカ 多サカカ のサカカ 久サカカ 夫サカカ へサカカ しくサカカ せサカカ せんサカカ 中サカカ へ

中々

原サカカ 二サカカ のサカカ 志サカカ しサカカ 又サカカ 中サカカ へサカカ とサカカ 財サカカ しサカカ 夫サカカ のサカカ 字サカカ はサカカ 桂サカカ 財サカカ し

中々

了サカカ 原サカカ のサカカ 志サカカ しサカカ 杉サカカ 原サカカ 徳サカカ 原サカカ へサカカ 行サカカ へサカカ もサカカ 姓サカカ せ

又中々へサカカ 中々サカカ 原サカカ の中サカカ 財サカカ ありサカカ せんサカカ 中々サカカ へサカカ 字サカカ 志サカカ し

原サカカ よサカカ 二サカカ のサカカ 志サカカ しサカカ 又サカカ 中サカカ へサカカ とサカカ 財サカカ しサカカ 夫サカカ のサカカ 字サカカ はサカカ 桂サカカ 財サカカ し

名サカカ 人サカカ 仲サカカ よサカカ 三サカカ 志サカカ 多サカカ 志サカカ せんサカカ 若サカカ 而サカカ 色サカカ 世サカカ 財サカカ し

中々

名サカカ 人サカカ 仲サカカ よサカカ 三サカカ 志サカカ 多サカカ 志サカカ せんサカカ 若サカカ 而サカカ 色サカカ 世サカカ 財サカカ し

中々

名サカカ 人サカカ 仲サカカ よサカカ 三サカカ 志サカカ 多サカカ 志サカカ せんサカカ 若サカカ 而サカカ 色サカカ 世サカカ 財サカカ し

中々

名サカカ 人サカカ 仲サカカ よサカカ 三サカカ 志サカカ 多サカカ 志サカカ せんサカカ 若サカカ 而サカカ 色サカカ 世サカカ 財サカカ し

中々モリ 財カニ 後モリ 出カニ ありカニ 志カニ せんカニ 若カニ 而カニ 色カニ 世カニ 財カニ し

中々モリ 財カニ 後モリ 出カニ ありカニ 志カニ せんカニ 若カニ 而カニ 色カニ 世カニ 財カニ し

中々モリ 財カニ 後モリ 出カニ ありカニ 志カニ せんカニ 若カニ 而カニ 色カニ 世カニ 財カニ し

あつち

後之を以て其の法を以てし

世中此法あり

梅外いあつちあり

おせとと世の世よりなりく如く又能國法部

交枕より世中此法ありとハもとの妻と云へ

古世中の法ありなりと云ふ人あり

世分

須く和名集より集法と云ふなり世の

世代焼

大凡し世も分ありと云ふ人あり

と云ふ世を分り古世法あり

法 此は令より出たり世法あり

法 今より世の法より一加てと云ふ

法令より世の法より一加てと云ふ

世の法より世の法より

新 二新法も世の法より一加て

又新法も世の法より一加て

世の法より世の法より

世の法より世の法より

世の法より世の法より

ノコルアツサ

世暑

世暑 世暑 世暑

長閑 ^{ノトカ} ニシウニ仰よハクハ心もいひて
と多ク一多ク一多クあつて
あつて二多ク

木

萩 ^{オキ} 萩よ一又此片よ一焼原一多萩よ一
まの萩 ^{マノハギ} 多ク一上四一仰よ一
よ

木 ^キ 又萩のそよは日一木ハ体よ三多志
ちりり ^{シタモエ} 萩をけりり萩葉多とぬもは萩
よき ^{ヨキ} 萩の

いひ六萩乃ハ萩ハ萩

萩のまゝ一萩ハ萩ハ萩ハ萩

いひ萩ハ萩ハ萩ハ萩

萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩

よき ^{ヨキ} 萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩

萩葉 ^{オキハ} 萩葉ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩

萩葉 ^{オキハ} 萩葉ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩
萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩

萩葉 ^{オキハ} 萩葉ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩
萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩

萩葉 ^{オキハ} 萩葉ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩
萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩

萩葉 ^{オキハ} 萩葉ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩
萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩

萩葉 ^{オキハ} 萩葉ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩
萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩ハ萩

オチハノニヤ
落葉宮 女三つありし皇女多し
人備ありはるめも桂地も

あらしは落葉宮の門へ

オヤコ
親子 此れにては述懐し物わとらわたり
そらわは述懐はあらし又親は子に二方

去し親と去し子にあらはれし

子成ゆし親のふりしゆきと 中七文字

ふりかとのとあらしまじりと古人の判し

オチケ
付 此一高し月花乃月は一御は他よと一
加て三し親法宗よ二方去るも同く

オチ
光 此一生親桂地の乃よ一御はと一
何しきよ白髪のし此宮は

あまし御よ七方去し又あし親をくやう
乃のきよはあらしめりし御よ二方去し
但意のりあらし知るし又志はあも二方
去しあもあらし二方去しあらし
あらしあらしあらしあらし

奥ひよ
火二方去しあらしあらしあらし

奥ひよ
あらしあらしあらしあらし

オチ
第 新式はあらしあらしあらし
御よ下あらしと二方去しあらし

あらしあらしあらし

オトコ 只一桂男カツラをかきしめてまはしむるは能はと一
男 加し男山も木乃門し又海もくお焼乃お
蔵男サチオ所とひわくく三あ〜もま〜又男麻

尾上 オノへ 只一若ふよ〜し〜も〜
付す但若木下ミチの尾上よ六付し

晩指田 オラテタ 桂地よ新成き〜あ〜し〜
ひ〜桂地よみるま〜ひ作よなる

去し一後よ物けて田とを〜作と桂地〜
暁田ともくた〜田た〜つ〜桂地よはまし

奥 オウ 折よ二ツ〜し御女なよみ〜念の内よと一
を〜陰具ひ〜は〜

起 オクル 夜を〜り〜んま〜は〜
去る〜又人乃上よま〜本生歌よ〜

勝 オク 月次じと〜あ〜早成じと〜
紙巴乃乃よ灯よじ〜ひ〜

おん海辰の月あ〜は〜一辰のおち〜

春〜あ〜月此勝辰か〜又勝よ
夜二の去し〜

大正... 十九

あつしとくちよく白

あつしとくちよく白

あつしとくちよく白

あつしとくちよく白

あつしとくちよく白

あつしとくちよく白

あつしとくちよく白

大神祭

四月卯月

大原祭

二月上卯月

久

草花

草花の草花は草花

草花の草花は草花

草花の草花は草花

草花の草花は草花

草花

草花の草花は草花

草花の草花は草花

草花の草花は草花

又孝よ中^ハ乃^ハ如^ク樹^ノ字^ニ去^リし^テ如^ク葉^ノの子^ト樹^ノ父^ト也
又孝よ^ハ葉^ノも^ハ二^百也
去^リし^テ村^ノも^ハ同^シ也

人^ノ御^シし^テ二^孝成^リ人^ノ御^シし^テ一^加て^三も^ハ一^也
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝よ^ハ二^百也^ノ樹^ノ也^ハ
孝^ノ成^リし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也

草^ノ也^ハ
本草^ノに^ハ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也

草^ノ枯^レ也^ハ
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也

孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也

車^ノ也^ハ
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也

孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也
孝^ノり^て人^ノ御^シし^テ二^孝成^リし^テ一^加て^三も^ハ一^也

たじろん

惟々扱思ひの意は出せん

あはれは月よ車引をと 又

牛はれりてははたはたのまじ

知わさる法して麻の車とれ 宗紙

小宗のあはれりてははたはたのまじ

たのまじと云々し又火車の火車自然去華

臺即来迎のまじりてははたはたのまじ

をとるもはたはたのまじりてははたはたのまじ

ととるもはたはたのまじりてははたはたのまじ

車引と云はり又はたはたのまじりてははたはたのまじ

物許のまじりてははたはたのまじりてははたはたのまじ

車引と云はり又はたはたのまじりてははたはたのまじ

六十已後りてははたはたのまじりてははたはたのまじ

花と車引のまじりてははたはたのまじりてははたはたのまじ

あはれりてははたはたのまじりてははたはたのまじ

意ははたはたのまじりてははたはたのまじりてははたはたのまじ

車引と云はり又はたはたのまじりてははたはたのまじ

案車ハ業と云はり又はたはたのまじりてははたはたのまじ

車引と云はり又はたはたのまじりてははたはたのまじ

林乃と云はり又はたはたのまじりてははたはたのまじ

あはれりてははたはたのまじりてははたはたのまじ

車引と云はり又はたはたのまじりてははたはたのまじ

あはれりてははたはたのまじりてははたはたのまじ

乃小車ハ業の飛車香車出らりてははたはたのまじ

たしむる

雲井

大内乃事よしのひてもそひしきゆ
打紙短く又きひさゆとらわれば作
知るハ中^{十カラク}天^{エラカラ}を余^{エラカラ}中^{エラカラ}らよ二のましく又大内よ
く知わらひの作知るハ天原中^{エラカラ}天^{エラカラ}あよすうり
まよふたうくさりし又た井りよ恒信し

雲峯

剛明

^{クモノミヤ}六月しハ新よあうとてあひよハ
仇ともよ折ましめし夏^{カホシキ}雲多音峯
剛明^{エシ}のうし
昔二のましく夕よハまきうをん
やよふまきうをんあまよのまき
去し又ひのうくくは内^{ウチ}のうくくは内^{ウチ}ホの
くくは内^{ウチ}のうくくは内^{ウチ}ホの

くくは

あはれ乃くくはくくははよくくは
のよのくくはくくははよのくくは
くくはくくはくくははよのくくは
何^{ナニ}ハ黄昏^{クハクハ}と云入日^{ニチ}れ後^{ノチ}世^ヨと美^ミよあはれ
雀^{スズメ}色^{イロ}時^{トキ}と云出^デ乃^ノ時^{トキ}すあ祓^{ハラヘ}くくはあはれ
生^{ナマ}あよあはれまきくくはあはれと薄^{ウス}墨^{スミ}出^デ
まきくくはまきくくはまきくくはまきくくは

高^{タカ}山^{ヤマ}

高^{タカ}山^{ヤマ}よ徳^{トク}多^タりり雲^{クモ}乃^ノ夕^{ユフ}うま
まのくくはを思^{オモ}際^{サエ}のくくはくくはま
思^{オモ}際^{サエ}乃^ノ夕^{ユフ}や本^{ホン}波^{ナミ}袖^{スリーブ}乃^ノ露^{ツルシ} 玄^{ソノ}青^{キナオ}
信^{シノブ}長^{ナガ}公^{キミ}懐^{イキナ}斎^{イハヒ}乃^ノまきくくはのくくはくくは
以^{カラス}以^{カラス}信^{シノブ}乃^ノのくくはくくはのくくはくくは

柳塘スミツ暮スミ暗啼鴉カラスら

光三終

そのしらばあは入て鳥カラスをさうさうとあは
しめし

くま 鳥をしぬ雲本陰森門むくま
くまをさうさうとあはすうた

名よさうさうといふ鳥をさうさうとあはす
さうさうとあはすうた

くまクマ鳥トリ 鳥をさうさうとあはす
鳥をさうさうとあはす

常 年北常をさうさうとあはす
年北常をさうさうとあはす

屋

ヤハタ 名神イニシ此名アラス和キとシヨニ 名神此名和とま事一在いり一此
下よあり一納したとつらよ

名神乃者ツゲをさうさうとあはす
名神乃者をさうさうとあはす

名神乃者ツゲをさうさうとあはす
名神乃者をさうさうとあはす

又由ユよヨ和ワのノ名ナよヨま事マ一ヒをセあハすルことトしテハ
名神乃者ツゲをさうさうとあはす

名神乃者ツゲをさうさうとあはす
名神乃者をさうさうとあはす

名神乃者ツゲをさうさうとあはす
名神乃者をさうさうとあはす

日本船よ何ぞく思舟より所くしをも老^モ者
ハ穢^{アタラシ}くわおこわく思^{アタラシ}成のろよ女しとと俳よ
并しと名和ハ穢^{アタラシ}く三あしと打ててと一
款^{ヤブキ}冬 進能とよ二在るし言まきと此字
吹の字よぬも短くす世のよ

柱^ヒてととと心後ろ心吹 ぬと心吹

奥あしと女しと心よハ二方まきし又心吹色とハあ
心吹^{ココロ}深^{コソ}ぬや誰よとあしと心吹^{ココロ}し
握^クしととあしと心し又款冬ハ名本ぬと心吹
しとと心吹とと心ハ和^ワ訓のあやまらし

痛^{ヤト} 此揚ハ一中りわ世あし居あしあの日
中りわハ居あし世あし世介ハ名^{テウジウ}吹

月あふろやるハ一あまハ居あしあしと心吹
心吹^{ココロ}よハ心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}
加て心もまきと一若よハ名^ナ吹月家あふろ
中りわハ俳よと七のまきし又ハ名^ナ吹ハ名^ナ吹
あしあれん心^{ココロ}若よハ名^ナ吹ハ名^ナ吹ハ名^ナ吹
又若^ニ世ハ心^{ココロ}若よハ名^ナ吹ハ名^ナ吹ハ名^ナ吹

と心^{ココロ} 換^カ屋^ヤ 園^ヰ屋^ヤ 心^{ココロ}しと心吹
屋^ヤ 心^{ココロ}しと心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}

如ハ俳よ七のまきし又屋よ若も俳よて心吹し
柳^{ヤナギ} 心^{ココロ}しと心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}
心^{ココロ}しと心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}

心^{ココロ}しと心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}ハ心吹^{ココロ}

善く解く人若く器材よ又も一

穀ヤラ 抽物よ中後如く一在何白く解よ抽物

生るいふと穀といふと世内竹よ二方去し

葉ヤ 只一年此夫一解よ物うくと一まきし夫よ

矢よ年此夫うよ弓法月一連解たよ折如し

心ヒ 難く心書よあうととと云説あすし

心ヒ 就門乃勝りて伊勢

心ヒ 裁縫ぬ衣若く一人も多た如と何心解た布はりん

心ヒ 人備し心書よあうとと心よ六字去し

心ヒ 心書よあうとと心よ六字去し

心ヒ 心書よあうとと心よ六字去し

心ヒ 心書よあうとと心よ六字去し

心ヒ 心書よあうとと心よ六字去し

心ヒ 心書よあうとと心よ六字去し

心ヒ 心書よあうとと心よ六字去し

山雞照緑水 自愛一何愚

山鳥

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

山鳥の尾の如く鳥の事一也

あまのうつくし海とひきつらうも赤い女のうつくし
あまのうつくしとやめしりし

仙人 ヤマト 心教はあらしむ心よは二方去し人よは字去
親名は老而不死曰仙仙逝也逝而入

世文字も山人とくくし仙術 列仙傳 列仙傳よん
仙はかほくの仙殿と膝して世おと西展

とすくしりよ
そありとせしぬ里そ長閑なり とくしりよ

仙人のまはれすはたけいりちきて 宗紙

松間寂く无烟火 應朧朝来一片霞

世心して付とせし

心乃色 物はかまきりくまは植物よまはれんし
秋しお葉よはまきりくまはれんし

古のまきりくまはれんし 物はかまきりくまは植物よまはれんし
秋しお葉よはまきりくまはれんし

秋しお葉よはまきりくまはれんし 物はかまきりくまは植物よまはれんし
秋しお葉よはまきりくまはれんし

秋しお葉よはまきりくまはれんし 物はかまきりくまは植物よまはれんし
秋しお葉よはまきりくまはれんし

秋しお葉よはまきりくまはれんし 物はかまきりくまは植物よまはれんし
秋しお葉よはまきりくまはれんし

心榮 心は植物よまはれんし
心榮又葉はまきりくまはれんし

心榮 心は植物よまはれんし
心榮又葉はまきりくまはれんし

心乃錦 ^{ニシキ}

心乃錦ニシキは、心乃錦ニシキの心乃錦ニシキ。心乃錦ニシキは、心乃錦ニシキの心乃錦ニシキ。

心乃中

心乃中ニシキは、心乃中ニシキの心乃中ニシキ。心乃中ニシキは、心乃中ニシキの心乃中ニシキ。

心乃科 ^{ニシキ}

心乃科ニシキは、心乃科ニシキの心乃科ニシキ。心乃科ニシキは、心乃科ニシキの心乃科ニシキ。

心乃山

心乃山ニシキは、心乃山ニシキの心乃山ニシキ。心乃山ニシキは、心乃山ニシキの心乃山ニシキ。

心乃八重

心乃八重ニシキは、心乃八重ニシキの心乃八重ニシキ。心乃八重ニシキは、心乃八重ニシキの心乃八重ニシキ。

心乃周 ^{ニシキ}

心乃周ニシキは、心乃周ニシキの心乃周ニシキ。心乃周ニシキは、心乃周ニシキの心乃周ニシキ。

あつとてこれらを知るはよるをてなるまゝし

心乃生 ^{ニシキ}

心乃生ニシキは、心乃生ニシキの心乃生ニシキ。心乃生ニシキは、心乃生ニシキの心乃生ニシキ。

心乃葉 ^{ニシキ}

心乃葉ニシキは、心乃葉ニシキの心乃葉ニシキ。心乃葉ニシキは、心乃葉ニシキの心乃葉ニシキ。

心乃焼生 ^{ニシキ}

心乃焼生ニシキは、心乃焼生ニシキの心乃焼生ニシキ。心乃焼生ニシキは、心乃焼生ニシキの心乃焼生ニシキ。

心乃社 ^{ニシキ}

心乃社ニシキは、心乃社ニシキの心乃社ニシキ。心乃社ニシキは、心乃社ニシキの心乃社ニシキ。

心乃心ニシキは、心乃心ニシキの心乃心ニシキ。心乃心ニシキは、心乃心ニシキの心乃心ニシキ。

心乃心ニシキ

心乃心ニシキ

心乃心ニシキ

付るしきりし 皇居此文よ名所して味と
けくろくし入新よ家奴もけりす味紙をくさる
三ヤツコ
此奴ハたしひよけし

橋乃味手 クモテ 三カハ
津川の名所しきりてと橋の
橋よせりてやとてし

本此ハまハ橋のまよまてきし又仔細地度よ
ありと橋乃味手あれハ橋とハまよる所と
きりふらるるゆし又味よハ橋よけりてき
よんてゆ

信美海書此書ハ家奴もて履きしけりて橋立
ハニメテ

や又字 うらひの二るまし 又かりぬや書りぬや
事ハ此とてやハけりぬも平らハも又

月や花やぬや海や此とてぬやゆりし
けりとも知も又うらひの中し
いよくしし折合申す
やとハ此外ハ舞のり切字とありすと知し

後

松 まはるまの去能よぬる去し 又松
子日せりてけりし

志ししぬま此葉の文
子日せりてけりし
家紙

争うに作御の三分を分る一りすし多様
ありしと事義二の去れぬよ出約の分りし物
ありすじし一乃徳とありしじりし事此
津しし是古くありし記と事共ありす所常
記ありしと物し

松門 松門はわらば去りてはらわらし
松乃戸書松門あり又川書ありし

去原をわらばとりし事此

松尾 二松の尾も世にし松尾と二松の尾
勿しと二松一松ありし一合ても二
勿しと事のなうし事此松尾と又
又松尾にじしとひらるる事此

松尾乃尾 松尾乃尾は物よまきし松尾
松尾乃尾は物し

去凡を改しぬ事ありて又

松尾乃尾 松尾乃尾の事は松尾
松尾乃尾は物し

松尾乃尾 松尾乃尾は物し

松尾 松尾は物し

松尾 松尾は物し

松出 松出は物し

松出 松出は物し

松や人と松虫乃拜 松 乞ふ物

方去し植物は短く又白く

松の松虫乃の松 松 乞ふ植物

松花 松 乞ふ百年 松 毎年 松 緑の

松花 松 乞ふ松木春二三月抽

松花 松 乞ふ松花 松 偶逢山後到山前

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

松乃 松 乞ふ松乃 松 乞ふ松乃

おひのゝまゝのうへに
おひのゝまゝのうへに
おひのゝまゝのうへに

具心は松のうへに
具心は松のうへに
具心は松のうへに

株のあし生敷
株のあし生敷
株のあし生敷

七のまゝし
七のまゝし
七のまゝし

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

おひのゝまゝ
おひのゝまゝ
おひのゝまゝ

討

煙ケル まりよ七の去ハ俳よあむ去一火此歌
たぐぬまのあむ同忘し去竹一ホホ
まりのハ似せぬままんるよよあむく火此うをさ
分てもとく一又煙を居ぬく植桂の
ふら過留士後河寛カキトあしれ中一の知るよ結て
ま留しはるたハ玄名のまありとて深く思し
一まられまありハやよまのあり 争れあし又
カ少のよまま留さうり表さ 是ハ表傷よ
落美とま留也絶ちまし又む一 梵灯店主
乃ありのるよ

人を送らてう向島トリス とうらよ
あいの乃まありたあよ妙えん その時代乃
名うし毛しわ煙まきと号てお世の末社よ
いふハ無し又古句よ
一村乃松乃折コス せんうらまあり とうらよ
黒ハ中留の山乃うらまあり 又
そくくくうらまのり末
うらまは下は梅舟ウツボたかり夜明けく 此のかりよ
乃ま留あむありし先紫の絶ちまし
あよ 一まら二し俳よハあしあはれよと一和一
乃少よまらあよあし二のまし又少よとの
字ねハも但しあよま留ハ二のましとハあしあも

葉の

葉の

葉の

如きすは是も一々の時二のきし又しるはと夜
夜をよわすす也してきと去河のあふれ地
いつきもろくはしと知し

ルわよ
まよ酒の能よと一加し
ルりあわの

ル
ありの二よと一加し
中よ二三字うまやまのまよのあは

まよせるまよと
まよらんよと二のまよし
此中略

ル
長閑し
まよの折しとくまよのあはしと

ル
まよのあはしとくまよのあはしと

毛をのり
まよのあはしとくまよのあはしと

飲と飲乃
まよのあはしとくまよのあはしと

下知乃
まよのあはしとくまよのあはしと

奴

牡丹
一花一白し
まよのあはしとくまよのあはしと

よなすし
まよのあはしとくまよのあはしと

まよのあはしとくまよのあはしと

東山にぬんや花乃や又草 宗碩

此花乃より宗碩の吳花を牡丹花とせし
百花乃より色気あふまきうすして神女
そあつりとの神し僕よ花玉と此花とを
僕よの神ととも花とを神とせし

濃艶豈元三月盛残紅更向九秋芳

此花三月乃よりわらわす九月乃よりまきと云ん
又冬日の福よ

水陸群芳已歸久花主独自綻盈枝

今春もしやむの花もしらりて冬枯よ

此花乃よりわらわす此花乃より繁り
御心かみゆ和漢の義里乃懐成なる
いと福言れはゆりての志くすして通
まは事し勝よまきゆ又近代和め
表家此外めえゆ他のまよと他ま
なれゆし又春九草乃花乃まの吳花の内よ
とまきしとら二乃たる

友れ字 ゆは 新和しよよまよ智て

右郷 フルサト 此二名おの娘の乃よ一まよ二ん
うらとて三まよ一

...

其の初に居た^{井ノ井ト}其の舊里^{キヲリ}し^ハ
京の事^ハ言ふ^ハ京の事^ハ出た^ハす^ハた^ハり^ハお^ハわ^ハり^ハ
在^ハり^ハと^ハき^ハの^ハ京^ハの^ハ事^ハ若^ハお^ハの^ハ知^ハり^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
志^ハ實^ハ形^ハ彼^ハあ^ハし^ハ藤^ハの^ハ在^ハり^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
事^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ共^ハの^ハ在^ハり^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
ま^ハの^ハ折^ハし^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ然^ハ右^ハの^ハ事^ハ
居^ハた^ハり^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ

知^ハり^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
あ^ハの^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
又^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
月^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
也^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ

藤^{フチ} 藤^{フチ}の^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
手^ニ完^{キヤウ}ま^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
と^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
名^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
中^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ

限^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
又^ハ先^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ
新^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ報^ハと^ハき^ハの^ハ事^ハ

留古れ雪

後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪
出乃ゆふよ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪
留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪
留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪
留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

又他乃雪れ古る

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

留古れ雪よ^フ 後く約と冬れ雪よ^{チカウ} 留古れ雪

吹 字去 笛吹 字中 凡 新 六 十 八 七

奴 一 也 女 字 去 凡 折 六 十 八 七

更 字 去 又 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

月 一 也 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

又 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

奴 一 也 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

源 一 也 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

奴 一 也 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

奴 一 也 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

奴 一 也 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

降 物 一 也 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

盖 一 也 凡 折 六 十 八 七 凡 折 六 十 八 七

六

意乃字

意乃字 意乃字 昔ある教ある所と
 あいよあしとわしとせうらと 意乃字をその
 法にあらひまるとおとすといふは日ありし
 叔尚意を意乃字とていふは日ありし
 各よりて一なるは二つといふは日ありし
 意乃字とて字を意乃とてまはるるは日ありし
 の法に意乃字の下の法に意乃とてまたのひの根
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし

意乃字 意乃字 昔ある教ある所と
 あいよあしとわしとせうらと 意乃字をその
 法にあらひまるとおとすといふは日ありし
 叔尚意を意乃字とていふは日ありし
 各よりて一なるは二つといふは日ありし
 意乃字とて字を意乃とてまはるるは日ありし
 の法に意乃字の下の法に意乃とてまたのひの根
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし

意乃字 意乃字 昔ある教ある所と
 あいよあしとわしとせうらと 意乃字をその
 法にあらひまるとおとすといふは日ありし
 叔尚意を意乃字とていふは日ありし
 各よりて一なるは二つといふは日ありし
 意乃字とて字を意乃とてまはるるは日ありし
 の法に意乃字の下の法に意乃とてまたのひの根
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし

意乃字 意乃字 昔ある教ある所と
 あいよあしとわしとせうらと 意乃字をその
 法にあらひまるとおとすといふは日ありし
 叔尚意を意乃字とていふは日ありし
 各よりて一なるは二つといふは日ありし
 意乃字とて字を意乃とてまはるるは日ありし
 の法に意乃字の下の法に意乃とてまたのひの根
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし
 意乃とていふは日ありしとていふは日ありし

カハラ
カハラ
カハラ

本枯 コカラ 物冬し 事休し 一白し 事乃
もあし 又さく 本枯ハ 枯物ハ あり

本枯 コホク 本枯ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

本枯 コホク 本枯ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

本葉 コホク 本葉ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

本葉 コホク 本葉ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

本葉 コホク 本葉ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

本玉 コホク 本玉ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

本玉 コホク 本玉ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

本玉 コホク 本玉ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

本玉 コホク 本玉ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

九重 コホク 九重ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

洞 コホク 洞ハ 本物ニ 二万去し 折ハ 折ハ あり
折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり 折ハ 折ハ あり

カハラ
カハラ
カハラ

二白まきし... 植物のわく... 又... 二白まきし... 植物のわく... 又... 二白まきし... 植物のわく... 又...

まじり... 二白まきし... 植物のわく... 又...

海... 二白まきし... 植物のわく... 又... 海... 二白まきし... 植物のわく... 又...

新式... 二白まきし... 植物のわく... 又... 新式... 二白まきし... 植物のわく... 又...

又... 二白まきし... 植物のわく... 又... 又... 二白まきし... 植物のわく... 又...

又... 二白まきし... 植物のわく... 又... 又... 二白まきし... 植物のわく... 又...

毒... 二白まきし... 植物のわく... 又... 毒... 二白まきし... 植物のわく... 又...

戸... 二白まきし... 植物のわく... 又... 戸... 二白まきし... 植物のわく... 又...

子... 二白まきし... 植物のわく... 又... 子... 二白まきし... 植物のわく... 又...

子... 二白まきし... 植物のわく... 又... 子... 二白まきし... 植物のわく... 又...

心... 二白まきし... 植物のわく... 又... 心... 二白まきし... 植物のわく... 又...

心... 二白まきし... 植物のわく... 又... 心... 二白まきし... 植物のわく... 又...

二白まきし... 植物のわく... 又... 二白まきし... 植物のわく... 又...

たしな

や

ち

かろくしん公乃松の夕夜 松乃木暮ん
月夜も海月し一葉まきし 月夜も地乃
心乃松の夕夜も其しすりし

月夜し松一葉まきし

心乃松 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
又松の夕夜も其し

松やしん公乃木暮もわらぬや

心乃松 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
心乃松の夕夜も其し

心乃松 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
心乃松の夕夜も其し

景馬荒走六塵境 心猿飛遊五濁枝

心交 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
心交の夕夜も其し

心交 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
心交の夕夜も其し

心交 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
心交の夕夜も其し

去年 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
去年の夕夜も其し

心乃松 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
心乃松の夕夜も其し

心乃松 松乃木暮ん如し石愛れすまきし
心乃松の夕夜も其し

心乃松

心乃松

心乃松

家
家
家
家

家
まのちの去仰よめりきし又家よ神と
竹さりのし又家川家子乃森の家了
字よきし

越路よ
越乃字二万きし越路よ東又
名おホサ坂まし

越路よ
コノモ カノモ
津氏物度よ出のもしかのし
業如くいんときり

出せ
一在りし中よハ二万きし又
しきしハハれ祓とと當りし

江

江
一在りし中よハ二万きし又
一在りし中よハ二万きし又

名
一在りし中よハ二万きし又
一在りし中よハ二万きし又

東
東東南西戎北秋
東東南西戎北秋
東東南西戎北秋

均
たよりなきし中よハ二万きし又
たよりなきし中よハ二万きし又

東
東
東

寺

寺

只一若あよし一併よの世おち年々又
よみよのよよと一加

手

折よ二ツし一併よのよよと一
よよと一ツし一併よのよよと一
よよと一ツし一併よのよよと一
よよと一ツし一併よのよよと一

て

そえん所しあつて二の
かちり大いそのよよと一

よ

心

絵^工の^キ草^キ本

植物よあつてその色
よよと一ツし一併よのよよと一

是形式の青したよの柳橋よと成よよと
たの神の植物よあつてその色
他よよのよよと一併よのよよと一
生形よあつてその色
よよと一ツし一併よのよよと一
よよと一ツし一併よのよよと一
よよと一ツし一併よのよよと一
よよと一ツし一併よのよよと一

よ

よ

又此也生事...
 思しと...
 よ物と古人の...
 ...

花

一葉...
 一葉...
 ...

一葉...
 ...

世本云 共...
 ...

一葉...
 ...

一文字...
 ...

...

といひん

一村 居たりしは海にたぐりて物よはた

鯛 神武天皇の一日の字をたすといふも

月あもさるあもし夕所もさるもあし

又朝は降の

海室 ちとてはもたはたあはたあ

海室 ちとてはもたはたあはたあ

あまし海室のちとてはもたはたあ

あまし海室のちとてはもたはたあ

あまし海室のちとてはもたはたあ

あまし海室のちとてはもたはたあ

あまし海室のちとてはもたはたあ

あまし海室のちとてはもたはたあ

あまし海室のちとてはもたはたあ

あまし海室のちとてはもたはたあ

まゝせ毎年六月の故郷に... 松原... 独... 二... 一... あり

付るま... 人形... い... 単衣... 火... 折... 火... ち... ち... ち...

たゞし

四

長心よりわきと書きつゝ一かゝりぬし

日よ

月星未^{ホシ}きよなる去作は其^{ホシ}也

又日よ蓋^{フタ}のなるも其も又日よ其^{ホシ}也

乃よ年とまゝのいごと又月次乃日よ其のよるい

二の去し月次の日月次の日天^{ツキ}をよわすも

又日よ其^{ホシ}の夕^{タタ}の字も又日よ月次の

月よ其^{ホシ}きし又日よ日本日老の^{ホシ}の

字よ去あり

むら

月日星よ一花宮^{ハナミヤ}也^{ホシ}一花陰よ

一^{ホシ}仰よ一^{ホシ}一^{ホシ}如て仰もあり

半野祭

卯月上申月^{ヒラノ}一^{ホシ}在^{ホシ}天自^{ホシ}此^{ホシ}也^{ホシ}廣

あり年中^{ホシ}り^{ホシ}す^{ホシ}也

神元卯月^{カミノ}一^{ホシ}文^{ホシ}今も^{ホシ}卒^{ホシ}此^{ホシ}也^{ホシ}中^{ホシ}う^{ホシ}つ^{ホシ}也

小^{ホシ}中^{ホシ}と^{ホシ}同^{ホシ}社^{ホシ}一^{ホシ}延^{ホシ}歴^{ホシ}年^{ホシ}中^{ホシ}一^{ホシ}遺^{ホシ}業^{ホシ}も^{ホシ}一^{ホシ}

祭^{ホシ}ハ^{ホシ}財^{ホシ}也^{ホシ}よ^{ホシ}る^{ホシ}一^{ホシ}す^{ホシ}ん^{ホシ}一^{ホシ}時^{ホシ}乃^{ホシ}祭^{ホシ}ハ^{ホシ}寛^{ホシ}和^{ホシ}よ

始^{ホシ}一^{ホシ}社^{ホシ}ハ^{ホシ}神^{ホシ}也^{ホシ}一^{ホシ}と^{ホシ}六^{ホシ}字^{ホシ}知^{ホシ}一^{ホシ}知^{ホシ}ハ^{ホシ}祭^{ホシ}也^{ホシ}よ

多^{ホシ}一^{ホシ}又^{ホシ}紙^{ホシ}屋^{ホシ}川^{ホシ}の^{ホシ}中^{ホシ}と^{ホシ}半^{ホシ}仕^{ホシ}の^{ホシ}中^{ホシ}よ^{ホシ}る^{ホシ}

ひ^{ホシ}一^{ホシ}一^{ホシ}女^{ホシ}を^{ホシ}す^{ホシ}れ^{ホシ}る^{ホシ}一^{ホシ}め^{ホシ}一^{ホシ}知^{ホシ}

月^{ホシ}中^{ホシ}年^{ホシ}末^{ホシ}葉^{ホシ}結^{ホシ}の^{ホシ}末^{ホシ}紙^{ホシ}屋^{ホシ}川^{ホシ} 祭^{ホシ}也

祭

中^{ホシ}者^{ホシ}一^{ホシ}一^{ホシ}仰^{ホシ}よ^{ホシ}六^{ホシ}季^{ホシ}紙^{ホシ}の^{ホシ}一^{ホシ}と^{ホシ}言

初^{ホシ}極^{ホシ}ハ^{ホシ}社^{ホシ}乃^{ホシ}神^{ホシ}也^{ホシ}一^{ホシ}と^{ホシ}言^{ホシ}多^{ホシ}也^{ホシ} 心^{ホシ}教

日産^{ホシ}乃^{ホシ}祭

神^{ホシ}祇^{ホシ}し^{ホシ}日^{ホシ}産^{ホシ}の^{ホシ}一^{ホシ}と^{ホシ}言^{ホシ}も^{ホシ}言^{ホシ}し

祭^{ホシ}也^{ホシ}の^{ホシ}時^{ホシ}乃^{ホシ}祭^{ホシ}也^{ホシ}一^{ホシ}と^{ホシ}言^{ホシ}も^{ホシ}言^{ホシ}し

七

^{ヒメ}姫

ニあり橘姫作係姫ありとくし御よ人傳の
うらよよと一加等

昨^{ヒメ}

後と伯ととも御供とくし日本紀よりと
神籙とくかりんし

^{ヒメ}常陸常

蘇^{カニ}急乃御神の祭此月祭の
女よありとれ人あなれとよなり

御よありとれ常ととも布の若一よらとる
神あよりとらとる御ゆるる中一よらとるの若
あよりとるの御一とあしとる御一

東海の内海そかりは廣者かとらりよるるんをとる

郡^{ヒメ}

田舎れましくし御一御よ二もあし
一鳥のいなるを御よらとる御

^{ヒメ}天難ひまをそよとて母とくはとるり中り
御^{ヒメ}拍り越中しとら御しひまよありとる

あよりとるしとらひの御一田舎人の御
東城あよりとるもあしとらとる

むか

一鳥よとる御よしとる御よ
あよりとる御よとる御よとる御

領巾^{ヒメ}

比教ともあし天人の中とるの御よとる
知し又ひまもあし御よとる御

一鳥大伴の作^{ヒメ}悦法^{ヒメ}有とる人座^{ヒメ}御よとる
とるの時御よとる御よとる御よとる御よ
乃知りとる御よとる御よとる御よとる御
一よとる御よとる御よとる御よとる御

御よとる御

御よとる御

御よとる御

梅乃杖乃句よ一草よ一草よ三三しん
色は字二をきし葉ハ字志し葉はひらひらよ

冬乃杖乃句よ一草よ一草よ三三しん
たうひよらまて乃中く又お葉よは乃乃

他回 ヒトクニ 人備よわん ヒカ 冷 ヒカ 初杖しいゆりも
人よ二をきし 日あし

年穠乃句よ ヒラアキ 意乃杖乃句付の意の杖是
とすし表はるも月あし

新式く此等し一杖乃のりて意のりや
すぬやうよと備し又季意の句は二の結よ
知とを祝わしなるとハ年杖乃の四の表て
ひるめよ意の杖乃のわん時季意二のりても
よ能し

毛

紅葉 モミチ 三梅杖 ムメサクラ 中よ一草よ一草よ三三しん
よらふよと本れお葉よ本のんと乃乃中よ

色は字二をきし葉ハ字志し葉はひらひらよ
まらんと本れお葉よ本のんと乃乃中よ

さうひ解よをきし字志しと云ハ本葉乃
たうひよらまて乃中く又お葉よは乃乃

お葉乃杖 ヒ 植物よわんひらひらよ
根乃杖よよら

天川お葉乃杖よらとせ名や七夕乃杖と別れ

ふいん
七

うらまをせとおまの橋しきりあはれしよ此
あはれハ七夕に秋夜すらしてとあまの天川の
橋よおまの紙のせりくうらまのし
崇徳院の法衣の橋の字紙部て丹波字と
しとくし近代昔よおまの橋しきりあはれし
あまのしきり

百子鳥

モ、チトリ
書し後く約のお橋まはり
書よ一書作しよは折し

百の鳥書し物とよは改書とも我え如りり
しう此書よ男とわさるし

百の鳥と書し物とよは改書とも我え如りり
しう此書よ男とわさるし

宗長

よらうらまをせとおまの橋しきりあはれし

百友

モ、ハヤ
居よあはれし雲上雲井あはれし
書しよは折し

襟

モ、オモ
知よ二の書し物紙思よの物よ字とまあり
あはれし

瓦上川

モ、カニ
上乃字二の書しおまのしりあはれし
下はし物とらうし

瓦上川と云ふ物いよ舟のいよあはれし月とらわ

月氣もいよ船とらわ
瓦上川 昌徳

求子

モ、ヨ
神祇し人傳り子よ折し
神来り書しの若し

唐

モ、ロコ
一書し物とらわし又まはり解よしあはれし
唐の物よとらわし又まはり解よしあはれし

きんわとよよはさしとくしき末のあつとくし
初乃あひなれはあつとくし

鵲 ^{モス} 秋しきあつとくし ^{モス} 秋しきあつとくし ^{モス} 秋しきあつとくし

ひーと草花あつとくし ^{モス} 秋しきあつとくし

たよよあつとくし ^{モス} 秋しきあつとくし

えい或人あつとくし ^{モス} 秋しきあつとくし

あつとくし ^{モス} 秋しきあつとくし

^モ 藻乃花 文し海乃色は事よ地又とくし

^{モリ} 森 長一若あつとくし ^{モリ} 秋しきあつとくし

^{モノラ} 武士 人仰し仰よあつとくし ^{モノラ} 秋しきあつとくし

物子よ 後初乃あつとくし ^{モノラ} 秋しきあつとくし

^{モナツキ} 八月乃 八月九乃あつとくし ^{モノラ} 秋しきあつとくし

文字解 ^{アガリ} 二乃あつとくし ^{アガリ} 秋しきあつとくし

たのびて
之
九

世

関 ^{世平}

此一名而二書杖又意を此内より一解
よ一関東実をかく加て四もさす一解よ
よせられたるてくさく又関とさすわの張る此
之を四院七道乃関ハ此の大禁と志す志めん
たぬ一関出ありをといふく振し関む之関
をさすの逢飯のさく又さすよ初の西乃内
振乃関ハわさすと此此関ハさ知し解りよ
いささすてもさす一又関乃戸関屋関乃
荒振をく居而よわんまきさく又心よわ
関ハ心敷浦よを関ハささす又関向と云

関 ^{世平}

関乃さすはさす一色ありさねん解りも此
は此関向と云すよす意一関字を辨し

蝉 ^{世三}

此一作は二一之字解も此内ハ此
連解とも新まきさく格物論
解ハ四附ともさす一と記さる詩よ多
此よとく一解と連解よ此友の意し

解のくさくさく一此の本陰ハ 宗長

又 ^{世三}

又此解と一う川一解ハ原氏知終
とぬ者れよとさわ蟬蛻と云物し
又解のさくさく一此此ハ此此此

迫 ^{世五} 奏 ^{世六}

少解も此とさすもさすわん解り
さくさく

二

す

巢

巢

鳥

黄鳥巢中 有杜鵑

学れ子うの川 孫乃知と云

紀

別

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

為

まゝよた巢として此こし仰よ二ふく

いつまてもまゝくしあゝる乃葉のまゝし窠乃

葉の報し鳥のうたのまゝのまゝしは根の

まゝの巢よのまゝのまゝのまゝのまゝ

黄鳥巢中 有杜鵑 とみくゆし又

学れ子うの川 孫乃知と云 宗族

紀別 松川にて此作し又宗林良材あまのま

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 此尾花一まゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為 仰よ二為二ふくして仰し為ハ此名入枝

まゝのまゝ

まゝ

月々入りぬるまゝのまゝのまゝ

鈴麻路

心動よわらば周も同あし枝ま

栖

あり候よ二ふくして仰し為ハ此名入枝

いつまてもまゝのまゝのまゝのまゝ

スニ井
住居

居ありまきし
字也及字志し
住居ハ

仰ともよあまし
又まじと
居ありまきし

スニキ
涼

又高紙とす
又まじ

折まじし
仰ありまきし

スニ
次

橋別し
又次

と云ハ三月
と云ハ三月

スニヤキ
炭焼

炭ハ地より
炭ハ地より

スニ
観

名ありし
名ありし

スニ
着

二し仰ありし
二し仰ありし

スニ
冷

二し仰ありし
二し仰ありし

スニ
杖

杖の定居ありし
杖の定居ありし

スニ
出

出まじし
出まじし

スニ
杖

杖の定居ありし
杖の定居ありし

スニ
出

出まじし
出まじし

松乃松心 心教ありは心教よむことありし
ともすしぬしぬりらよ三有去し

心教ありし二有去し

策 心教ありしは心教よむことありし
心教ありは心教よむことありし

相模 七月十五日の日の禁中一とす

心教ありしは心教よむことありし
心教ありは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし
心教ありは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

心教ありしは心教よむことありし

京

俳諧

韻學大成（音ガククイイセ）の剽索詩語多俳諧（イカクイカレゴオホシハイカイ）と
 といふ俳諧ハ戯也諧ハ和也（和イ）唐（タウ）も
 たふあふらうとけうの俳と俳諧と云ふあり
 古今集よりいさうる俳諧字と定（サダメ）ありし
 おまよあまうてまき字乃たあといとせり
 俳諧乃まき字と云ふ之未まき字此一神
 あれん新式乃法よまじらる式目しと
 といふあまうくも世旨よまじらる世の
 兵播ちり一しはまきんあ乃書よ新式乃
 旨なりしうたあうをすといふも物よ

むての筆紙一しは俳諧ああ志とて
 乃ちやをいひ約ん筆紙してよまぬ
 あらん後世れは人乃あうみよせん
 といひ約なりは俳一のぬく
 秘一あつ紙しと文とてうらうり
 乃よまじらる事とあまうあう
 後うらあしあういぬあまうあう
 入まらん人の師よまうしてあひ先筆よ
 けりての物なり
 懐紙 信じてわら事一あ紙物とてハ
 乃字何と俳諧何あうう後世之ま紙又

懐舊之生歎ハルシク年々ニシテかくはあついで俳諧之連歎ナカ

くをいひし一頁他乃流しきわ世々絶つ
まのし誅諧シカクとわくつらき近年俳諧の
書毎よ他をとりま海客力とく俳諧乃
字くあめやゆんたうひよき一里わつる
事一柳キナ乃本意よ約六他とて一まるの
うよああやまわのゆんたうつて志のたう
和漢ともよ持孝チウカウ此人申もあやまわのゆ
及人わくしむら時をらまひらとみく後漢や
元徳乃志とゆよとていし俳諧のくよ俳乃
あつてそのゆんたうをわんみらわよゆ
ひつしゆゆん又先輩一此たるなるよと

た乃たあよあつてしひのちをくしその人た乃
たあ我りらく本意よとくわあはよゆよ
なまのゆ

奔句

雲ヤクモ抄セウよ奔句ハ者オシテ和藹ニウ在可キ就之
一在の志シ取ケあれん宗匠ソウシヤウまき人ヒト保ホあまきく木乃
和ワまをたうしに雪月花ユキツキハナのゆ又一柳イチリウ一ヒトあある
よ玉てまき人宗匠乃作とすしゆんたう
とて流や奔句とや但タあ有此内乃奔句
月ツキよ玉てハ宗匠のなまひよヒト保ホあまきく
又奔句ハその在乃比宗時節ソウジキ此コノお熱アツク宗ソウ主シュ
乃ノ後ノチ撰センよまき人宗のゆ又マキ熱アツク宗ソウ主シュ

祈禱^{イノリ}遺書^{イノリ}と此作の引きよめ時^{十五}返すこと

又切字下知二字切三字切三階切まうして字の
中々舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字
ムーウ^ム舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

脇乃句

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

あはれも作者下らむ此の如く
撰抄多きことし^{イノリ}舞や古事か後未ぬ
まらむりやの如く^{イノリ}舞や古事か後未ぬ
うけりる事か^{イノリ}舞や古事か後未ぬ
突^{イノリ}舞や古事か後未ぬ
た^{イノリ}舞や古事か後未ぬ

白作して又舞直より改削とらけり

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

舞の如く一舞乃舞の字乃舞の字

行の律一 大よ如小如のまゝに
 草際虫しとうあゝぬゝのよ付をすし主俳
 乃作もそよあそつてあぢり又ウ
 道の奔の空を舞の赤よはらたのんいさてあ
 ぞひあまゝし又白此下乃字尻韻と云
 幸して無うそとあゝんい文字り歌とむりあ
 主作の舞の八舞白此章句入服ハ舞あり
 老来詩殊句よあゝいいて韻と云又腰のて
 才三八んゆあゝあぢやうよすりい
 舞の宗匠を如ん服ハ主作のまゝ
 才三八まゝんい又まゝん乃舞のまゝ
 才三八宗匠いあゝん舞の此時才三

才三

擬撰人い撰りんハ持する公紙を忘とよゆい
 詩也也才三ハ持りい但服のり舞の乃
 何や紙やんうあゝあぢらうい何九所一何の
 日記あゝん持を向よ及さるい日記あゝ
 物したの如い撰りてとあわし上乃
 才又字よまゝいやう此花咲て月出てあゝの
 詞とてとむりかうあゝ或ハまね字うとむり
 名お字れよハ名よまゝい物い又うい
 切字乃舞の此時才三まね字あゝまゝい
 の白ハ三白まゆい又うい乃舞のよ服
 ちしてていハ才三ハてとあわまね字
 もあゝあやの何を所いとあわあゝい

たのむすゝもじまわしり母もあつた
とあつたもいんらり〜いん又文字もいん
まもいんあ〜いん〜いんはあれれあれ
あ〜いん紙より乃格式〜紙の向文字も
とじりいん懐席〜いん又文字もいんけあつた
あ〜いんよてあつたもいんあ文字もいんああ〜いん
とあ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん

あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん
あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん

あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん

あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん

あ〜いんあ〜いんああ〜いんああ〜いんああ〜いん

法よハありハあり、乃キもまた、し、あ、ぬ
る、何、なり、と、是、性、と、な、く、じ、ハ、三、あり、て、る、は、毎、ら
ぬ、し、あり、ゆ、ん、ま、ま、よ、は、あ、を、て、身、つ、ぢ、し、

七句ゆ

乃、ひ、え、ん、有、年、し、は、ま、ま、
才、三、れ、後、ハ、上、乃、の、を、
月、の、句、又、一、喝、の、後、ハ、
を、ま、を、乃、る、と、し、
あ、り、し、き、し、
乃、事、し、
二、の、去、は、あ、ら、ん、は、
那、女、月、三、ツ、キ、
し、も、す、
は、い、ま、
し、も、
ひ、も、
し、も、

ひ、も、す、ハ、
あ、ら、ん、
ひ、も、
し、も、
し、も、
し、も、
し、も、
し、も、
し、も、
し、も、
し、も、

裏

志、を、た、
又、ま、
社、
若、
月、

なつたて 他のはこれなりといふは
わづなれどなつたて季にさふのまこれなり
まてなつたてと桂の枝とてさふの分り
なつたてさふと又さふの桂の枝とてなつたの枝
又花のさふはさふの字月捨わりぬり
さふはさふのまはさふのさふのまはさふ
さふのさふはさふのさふのさふのさふ
さふのさふはさふのさふのさふのさふ
さふのさふはさふのさふのさふのさふ
さふのさふはさふのさふのさふのさふ

なつたて 他のはこれなりといふは

輪廻乃夏

なつたて 松竹のさふのさふのさふ
なつたて 又波のさふのさふのさふ

なつたて 松竹のさふのさふのさふ
なつたて 又波のさふのさふのさふ
なつたて 又波のさふのさふのさふ
なつたて 又波のさふのさふのさふ
なつたて 又波のさふのさふのさふ

遠隔廻れ事

なつたて 内解のさふのさふのさふ
なつたて 内解のさふのさふのさふ

なつたて 内解のさふのさふのさふ
なつたて 内解のさふのさふのさふ
なつたて 内解のさふのさふのさふ
なつたて 内解のさふのさふのさふ
なつたて 内解のさふのさふのさふ

他乃物持も同あし

裏一頃 ウラ 初乃一頃のあしつりあし

揚句 アゲク 先業此後よ付さるる物とて是の

さしり地しああさしつりあし又揚句

た業一して業もさわはるるあは

花やゆふふ折乃花よ付しつりあし

まの業然らん物とて結合乃ちつりあし

心業一業乃ち一業の業尾と目い合せ

業持のあしつりあし又揚句の業つりあし

つりあし又揚句の業つりあし

白紙も時軍よふも今一又業乃此作も感

業一立乃役よあし又初乃一頃よ執業乃白

紙の揚句執業乃役し又業乃よま又字と

き

俳言 一之乃字なつて俳し屏風几帳柏子

俳乃潤子御外如胡蝶多しの物と

あしつりあし一之乃字の俳さしつりあし

鬼女新虎とのあしつりあし此詞俳さしつりあし

如河乃今様本と花梅雲峯一青飯小飯

門公備人妙乃女年よの河字之物あしつりあし

少書あしつりあし

解^{ヘキ}之^{カク}し^{コス}と^シ知^ル者^{ナシ}

可^レ免^レ愆^ト復^ス 新宅^{シンタク}乃^シ去^ルよハ色^シ也^{ナリ}也^{ナリ}也^{ナリ}也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ} 乃^シ火^ノの^ノ敷^キと^シり^ミ美^シ也^{ナリ}乃^シ去^ルよハ

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ} 乃^シ火^ノの^ノ敷^キと^シり^ミ美^シ也^{ナリ}乃^シ去^ルよハ

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ} 乃^シ火^ノの^ノ敷^キと^シり^ミ美^シ也^{ナリ}乃^シ去^ルよハ

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ} 乃^シ火^ノの^ノ敷^キと^シり^ミ美^シ也^{ナリ}乃^シ去^ルよハ

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ} 乃^シ火^ノの^ノ敷^キと^シり^ミ美^シ也^{ナリ}乃^シ去^ルよハ

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ} 乃^シ火^ノの^ノ敷^キと^シり^ミ美^シ也^{ナリ}乃^シ去^ルよハ

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

善^ク乃^シ字^ヲ也^{ナリ}

大いし

さ

世

延寶二年 九三

一 延寶二年三月吉日

一 延寶二年三月吉日

一 延寶二年三月吉日

一 延寶二年三月吉日

一 延寶二年三月吉日

一 延寶二年三月吉日

一 延寶二年三月吉日

延寶二年甲寅年三月吉日

洛陽 書林堂 板行

